



CORNER ITALIANO | 公式資料

テーママップ

本書の中心的な問いを探す

読書のためのテーマ索引

日本語版アーカイブ - 2026 年 7 月 - US Letter (8.5 x 11 in)版

<https://www.corneritaliano.com/ja/2050/resources/>

案内 本書は同じ問いへ異なる尺度から戻ります。このマップは各テーマを展開する場所を示し、ページ番号が変わっても参照できるよう、安定した章と節の見出しを用います。

成熟した希望と権限委譲の限界

本書で扱う場所：序章、第16章、終章「委ねないもの」。

技術を学び、暮らしを改善するときに使いながら、人の選択によって制限、拒否、是正できる余地を守ります。

能力、信頼性、権限

本書で扱う場所：序章、間奏Ⅰ、第1・4・7・8・12・16章、読者のためのツール「三つの統制語彙のマップ」。

何かを行えること、現実の条件で安定して行えること、行為を認可されていることは別の性質です。

2050年テストと三つの語彙

本書で扱う場所：間奏Ⅰ、第7章、間奏Ⅱ、第16章、読者のためのツール。

七つの問い、根拠の状態、組織としての決定は分離され、相殺する平均値を作りません。

ID、証明の最小化、ポータビリティ

本書で扱う場所：第2・3章、第16章、読者のためのツール「2050年テスト記入シート」。

人の全体を差し出さずに必要なことだけを示し、復旧と離脱のリスクを本人だけへ転嫁しません。

インフラ、継続性、離脱テスト

本書で扱う場所：第3・14章、第16章「見捨てずに離脱する」、読者のためのツール。

クラウド、ネットワーク、API、契約、残存能力は、縮退した継続性と置換を実地検証して初めて統制可能になります。

仕事、能力、教育

本書で扱う場所：第4・6・7章、第10・16章の関連箇所。

自動化は作業を圧縮しますが、学習、時間、権限が仕事に組み込まれているときにだけ判断力を維持できます。

委任範囲、救済、実質的な監督

本書で扱う場所：第4・5・7・8・12・16章、間奏Ⅰ・Ⅱ。

人が手続の中で意味を持つのは、根拠、時間、停止と是正の権限、理由付き結果へ到達する手段を持つときです。

ケア、不確実性、尊厳

本書で扱う場所：第8・11・15章。

技術的な誤り、臨床上の不確実性、価値観の対立、寄り添い、別れには、それぞれ異なる応答が必要です。

公共的真実、来歴、認識論的疲労

本書で扱う場所：第9章、第10章と読者のためのツールの関連箇所。

出所と変換を再構成することは検証に役立ちますが、公共的な信頼は、主張に異議を唱える人と制度の負担にも左右されます。

著者性、署名、新しい希少性

本書で扱う場所：第10章、第9章の関連箇所。

来歴、使用した道具の開示、署名は、作品の価値を自動的に決めずに、歴史、透明性、責任を配分します。

愛着、未成年者、関係の非対称性

本書で扱う場所：第11章、第15・16章の関連箇所。

慰めは、記憶、インセンティブ、中止の自由、ほかの関係への開放性によって、橋にも檻にもなります。

プライバシー、プロファイリング、未測定区間

本書で扱う場所：第5・12章、第11章の関連箇所。

保護は自動的に支配を正当化せず、人は直ちに運用プロファイルを作らずに変わることができなければなりません。

統制コスト、残存損害、組織能力

本書で扱う場所：第7・8・14章、間奏II「統制のコスト」「残る損害」、読者のためのツール。

検証は時間と能力を消費し、リスクゼロを約束しません。再構成、修復、範囲縮小を可能にする必要があります。

物質的な持続可能性と公正

本書で扱う場所：第3・13章、第14章の地政学的側面。

エネルギー、水、鉱物、機器、労働、廃棄物は、抽象的な費用ではなく、意思決定の連鎖を構成します。

戦略的依存、保守、インフラ上の発言力

本書で扱う場所：第3・14章、特に「保守が、誰に発言力が残るかを定める」。

相対的な自律性は、代替策、現地能力、標準、停止・是正・エクスポートの具体的な権限から生まれます。

不平等とアクセス

本書で扱う場所：第4・5・6・8・12・13・14章。

便益、待ち時間、保護、コストは、所得、地域、行政能力、救済へのアクセスによって変わります。

記憶、アーカイブ、シミュレーション、忘却

本書で扱う場所：第15章、第11・12章の先行箇所、終章。

痕跡の保存、追悼記録の整理、新しい言葉の生成は、それぞれ異なる委任範囲と権利を持つ行為です。

ライフサイクル、モニタリング、離脱

本書で扱う場所：第7・16章、読者のためのツール「テストから組織としての決定へ」。

記録票、ログ、インシデント、救済、離脱テスト、再審査によって、モデル、データ、規模、責任者が変わっても委任範囲を観察可能に保ちます。

委任しない、『しない』コスト、再開

本書で扱う場所：第16章「答えが採用しないであるとき」「『しない』コストと再開」、終章、読者のためのツールのダヴィデ事例。

拒否は保護とコストを記録し、代替策を維持し、最初の判断を消さずに新しい試験を可能にします。